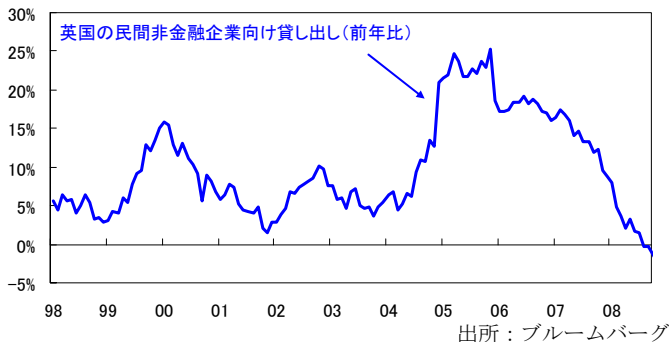


英国の金融政策は英ポンドにプラスか？

- ✓ 英国中央銀行(BOE)は、量的緩和の手段である資産買い取り枠を1,250億ポンドから500億ポンド増額し、1,750億ポンドとした。
- ✓ 一時醸成されていた来年初頭の金利引き上げ観測は後退したが、来年6月までの利上げ観測は依然として強い模様。
- ✓ 住宅関連指標を中心に景気回復を示唆する経済指標が観測され、ポンドは対円で年初以降、約22%上昇。

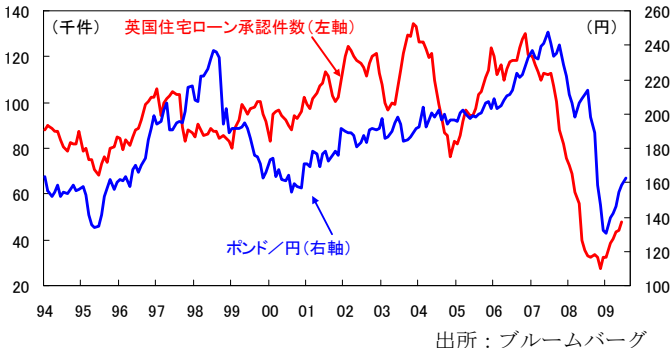
英国中央銀行は、量的緩和の手段である資産買い取り枠を市場の予想に反し500億ポンド増額しました。声明文では金融市場の安定と、家計・企業の信頼感の回復を評価しながらも、マネーと信用の伸びが弱いまま留まっていることに懸念を表明しました。民間非金融企業向け貸し出しが低迷していることがその証左といえそうです(図表①参照)。

【図表①】



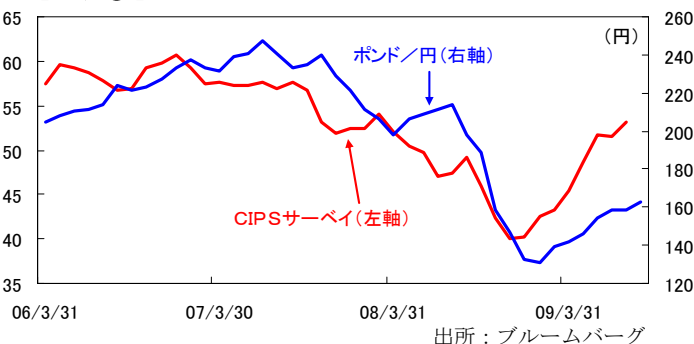
住宅市場の先行指標と考えられる住宅ローン承認件数の反発に連れてポンドも反発しています。金融危機の震源である住宅市場の改善はポンドの支持要因となっている模様です(図表③参照)。

【図表③】



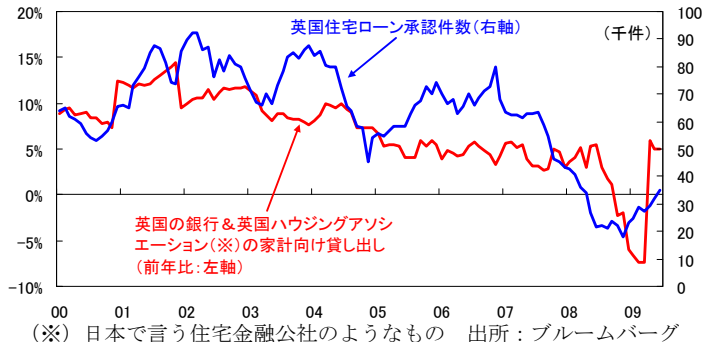
金融業・ビジネスサービス業の景況を現すCIPSサービス業指数は、改善しています。ポンドもこれに連れ高しています(図表⑤参照)。

【図表⑤】



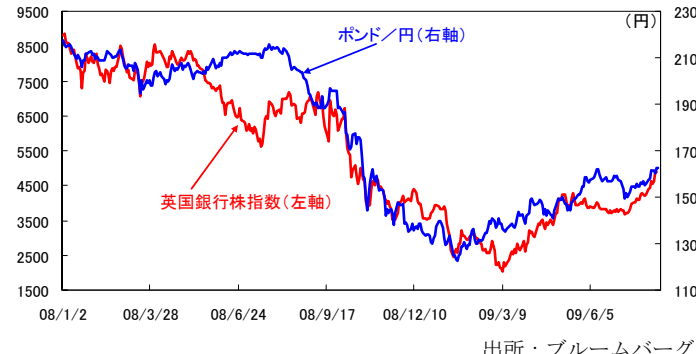
英国では、社債や国債が中央銀行の購入対象になり、量的緩和が実施されています。量的緩和に踏み切った背景の一つとしては金融機関の貸し渋りが挙げられていました。英国の金融機関の貸し出し、および住宅ローン承認件数の急減がこの証左でした。しかし、足元は量的緩和効果なのか、貸し出しや住宅ローン承認件数に底入れの兆しが見られるようになりました(図表②参照)。これらのことが来年6月までの利上げ観測の醸成につながっているのかもしれませんが。

【図表②】



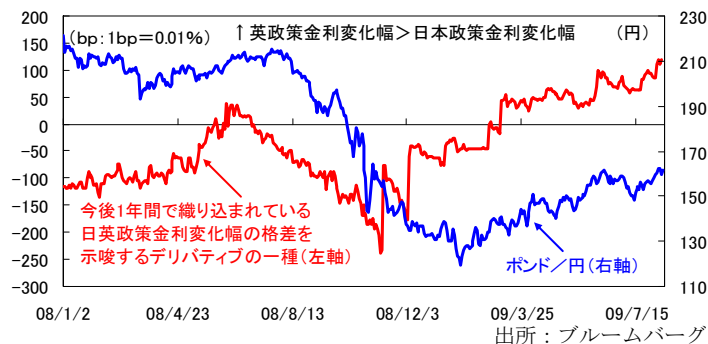
住宅市場の低迷と共に金融危機の根幹をなしてきた金融機関の信用問題への評価の代替である銀行株指数も反発し、ポンドも連れ高傾向となっています(図表④参照)。

【図表④】



金利先物市場では、2010年の6月までに小幅な利上げ観測が醸成されはじめたようです。今後1年間に織り込まれている政策金利変化幅の日英格差は英国優位になってきました。これに伴い、ポンドも上昇しています(図表⑥参照)。

【図表⑥】



ご留意いただきたい事項

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。
- 投資信託は値動きのある資産を投資対象としており、基準価額は変動しますので、これにより投資元本を割込むおそれがあります。ファンドによって投資対象資産や投資規制、投資対象国などが異なるため、リスクの内容や性質が異なります。また、投資信託のお申込時、保有期間中、およびご換金時には費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料に記載されている各指数、統計資料等の著作権・知的財産権その他一切の権利は、各算出先、公表元に帰属します。
- 当資料に記載されている内容は発行日現在のものであり、今後予告なく変更される場合があります。投資に関する最終決定はお客様ご自身でご判断ください。
- 当資料のグラフ・数値等は過去の実績であり、将来の市場環境の変動や投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。



ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第369号
加入協会:(社)投資信託協会、(社)日本証券投資顧問業協会

